



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2023年2月)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「表現発表会」

発表会2日目の朝、職員室から大爆笑の音が聞こえてきます。なにになに?と思っ
て入ると、小ネタの相談中。ゆり組の「ピーターパン」の劇の最後に先生たちがピ
ーターパンやフック船長に変身して出てくるといふ仕込み中でした。ふじ組のかよ
先生がシマシマの服を着てお腹にフリーストレーナーを入れ込んでスマー(フック
船長の手下)になってとぼけるという爆笑の嵐を巻き起こしながら2日目が始まり
ました。(劇を盛り上げるためには最後まで手を抜かない人たちでした)

保護者の皆様の温かいリアクションのおかげで、子どもたちは伸び伸びと表現す
ることができたと思います。ご参観ありがとうございました。

表現発表会は文字通り、お話の中に出てくる登場人物になり切って表現する劇遊
びですが、表現が大好きな子もいれば、逆に表現が苦手な子もいます。

概ね3歳から4歳はなりきることが好きで、お話の中の動物になり切ってイメー
ジの中で遊ぶことができます。4歳から5歳にかけては、友達
がいると盛り上がり、一緒に表現を楽しむ姿が見られます。
5歳から6歳になると、視野が広がるので人からどう見られ
ているのかを意識できるようになり、「恥ずかしい」という感情
も強くなります。クラスの劇を作り上げたいという思いと、一
人でセリフを言えるだろうか、人から見てどう見えるだろ
うか、という思いが交差して心が揺れ動きます。ところが、今
までの様々な幼稚園生活の中で、協働性や自尊心や自信・責任
感、友達を信じる関係性も育ててきています。「恥ずかしい」け
れども、それを跳ねのける力「レジリエンス」も育ててきてい
るのが卒園前の年長児です。揺れ動く感情と葛藤しながら、友
達から刺激を受けたり、友達に励まされたりしながら言葉のバ
トンを繋いでいきます。また、友達の様子を見て、「セリ
フをこっちにした方が言いやすいんじゃない?」と提案
してくれたり動きを工夫してくれたり、と、どんどんアイ
デアが飛び出すのが年長組でもあります。

担任は、そんなやり取りをずっと見守り支えてきたの
で、劇が終わると感動して涙がこみ上げてきます。これ
が担任の醍醐味かもしれません。いつもこの頃にな
ると、主任の晴子先生やありさ先生やにじいろ保育園副園



長のあつこ先生が「担任やりた〜い」と呟やいていますから・・・。

いつもお伝えしていますが、このような行事は、当日を含め取り組み中のプロセスで様々な育ちが見られます。保護者の方から「キッズリーの配信で今までの様子を見てきたから、ほんとに感動しました。」のお声もいただき、子どもの成長を共に感じてくださることが本当に嬉しく思います。

劇をやり遂げて部屋に帰ってきたゆり組の子が、劇の道具を見ながら「ねえねえ、これ片づけないで置いておこうよ。」と言いだしたそうです。「他の役をやってみたい子もいると思うしさあ、いつでもできるようにコーナーに置いとかない？」と・・・。ゆり組だけでなく、どのクラスでも、暫くは劇の場面での遊びが続くことでしょうね。

お店屋さんプロジェクトが終わる時も「今日で終わりは悲しい」と泣いていた子がいましたが、子どもたちの心に、終わりにしたくないほどの楽しさを感じ、自信になり喜びになって心に残っていく・・・そんな子どもたちには感動させられっぱなしです。



ゆり組「ピーターパン」の後の先生たちの変身小ネタ
子どもたちにはサプライズ